

～ 最近の生活 ～



永戸 良宗



昨年5月31日に子供が産まれてから生活が一変しました。

時間があるとおんぶをして家の周りをうろうろ...

一人だと不審者ですが子供をおんぶしているので人の目はあまり気になりません(笑)。歩いている最中も色々な所に目がいくようになり花が咲いていたりすると背中に向かって「ちいさな花が咲いてるねえ」など独り言をつぶやいています。

ただ、最近はつかまり立ちも始まり彼も成長しているので語りかけると背中を叩いてくれたりと反応が返ってくるようになりました。これからも少しずつ成長を見守っていきたいです。

私のつぶやき

～ 早く目覚めた朝に ～



平石 夕輝



少し前に、早朝に目が覚めて時間が空いたので、普段しない事をしてみようと思い、散歩に出かけてみました。外を歩いていると山の方からウグイスの「ホーホケキョ」という鳴き声が聞こえてきました。その時桜は咲いていませんでしたが、道端に目を移してみると春らしい暖かな色合いの花が咲き始めている事に気が付き、それまでは季節の移り変わりを意識する事は無かったのですが、こうして見て、聞いてみる事で「もう春なんだな」と感じて少し暖かな気持ちになりました。普段車で通っている道でも、歩いてみることで車内では感じることのできない季節感を感じられるので、たまに気が向いた時に散歩をしてみるとというのも新たに気付くことがあったりして良いのかもかもしれないと思いました。

かけはし

Vol.40
春号

2019年4月



そろそろ桜が満開ですね！
お花見に出かけたくなりますね (^_^)

4～6月の税務・お知らせ

申告所得税の口座振替日 ... 4/22(月) 消費税の口座振替日 ... 4/24(水)

預貯金残高のご確認を！

源泉所得税の特例納付、社会保険の算定基礎届のご準備を！

お休みカレンダー

2019年 4月							2019年 5月							2019年 6月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6				1	2	3	4							1
7	8	9	10	11	12	13	5	6	7	8	9	10	11	2	3	4	5	6	7	8
14	15	16	17	18	19	20	12	13	14	15	16	17	18	9	10	11	12	13	14	15
21	22	23	24	25	26	27	19	20	21	22	23	24	25	16	17	18	19	20	21	22
28	29	30					26	27	28	29	30	31		23 30	24	25	26	27	28	29



毎月、いろいろなアレンジのお花を社内に飾っています (^_^)

〒698-0041 島根県益田市高津一丁目1番1号
TEL (0856)23-6116 FAX (0856)23-6674
E-mail bplan@sx.miracle.ne.jp
HP http://annokaikai.com

ビジネスプラン / あんの会計

わたしたちは、たくさんの“ありがとう”を集め、日本の中小企業を元気にします！
過去のニュースレター「かけはし」は、弊社ホームページからご覧頂けます。

こんにちは、安野広明です。
いつもニュースレター「かけはし」をお読みいただき、ありがとうございます！



代表取締役
安野 広明

山陰地方は暖冬だったこともあり、「厳しい冬を越え、待望の春がやってきた」という感じでもないかもしれませんが、とはいえ本格的な春の到来は心が晴れやかになるものです。また今年の春は、「新たな時代のスタート」でもあります。当ニュースレターがお手元に届く頃には、既に新元号も発表されていることでしょう。お互い、歴史の転換点に立ち会えることに感謝しつつ、この一瞬一瞬の時を、大切に過ごしたいものですね。

なお、同封のチラシにもございますように、今年も、「人を大切にする経営実践講座全6回」を企画しました。昨年、大変ご好評いただいた企画の第2弾となります。ご承知の通り、現在、多くの中小企業にとって経営者の頭を悩ませているのが、人手不足の問題です。全国的に、「人手不足倒産」という言葉も耳にするようになりました。そしてこの問題は、指をくわえて見ても改善は難しく、会社として、何かしらのアクションを起こす必要があります。そのヒントが、「人を大切にする経営」なのです。今年も、昨年よりもさらにパワーアップしたカリキュラムとなっていますので、ご興味のある方は、ぜひこの機会にご参加下さい。社員がやりがいを感じ、人財が育つ「いい会社」を、共に目指しましょう！それでは今月号も、よろしくお祈りします！！

「1人称の視点」を持つことで、世の中の見え方は変わる



以前、1人称童話シリーズの『桃太郎が語る 桃太郎』という本を読んだことがあります。子供向けの絵本なので別におすすめる訳ではないのですが、インターネット通販サイトAmazonの「内容紹介」から一部抜粋すると、以下の通り。

『ぼくは鬼がこわいと思いました。

「昔々あるところに…」でおなじみのスタンダードな昔話は、決まって3人称、いわゆる「天の声」で描かれています。3人称から1人称へ。客観から主観へ。もしあの童話の主人公が自らの口で語ったら。その額にカメラがついていたら 「1人称童話」はそんな発想のちょっと変わった絵本です。描かれるのは、3人称のナレーションでは語られない、主人公の「たとえば」の胸の内。他者である主人公の視点から物語を体験する1人称童話は、「まなざしと気持ちの絵本」と言えるのかもしれませんが。』

桃の中に入っている時 (=産まれる前) から、すべてが桃太郎目線というユニークな切り口で、本の最後には、「もし君が桃太郎なら？」との問いかけが…。読んだ後にも子供に考えさせる工夫が為されています。個人的には、「このように1人称にただで、こんなに物語の見え方や感じ方が変わってくるのか～」というのが、率直な感想でした。桃太郎には、桃太郎にしか分からない真実がある。そういうことでしょう。

そしてこのことは、すべての人間関係において同じことが言えます。人はそれぞれ、人生という物語の中を生活している訳ですが、その際、「傍からどう見えるのか」と、「その人がどう感じているのか」とは、まったく別。

先の例で言えば、物語の中では鬼ヶ島の鬼に勇敢に立ち向かう桃太郎も、心の中では「鬼が怖い・・・」と思っているのかもしれませんが、1人称の対象を鬼に切り替えてみると、鬼には鬼の真実があるのかもしれませんが(鬼に感情があればの話ですけど)。

何が言いたいかというと、1人称で捉えることによって世の中の見え方や感じ方が変わるのであれば、他者とコミュニケーションを図る上でも、表面的な見え方とは別に、「この人には、この人にとっての真実があるんだろうな～」といった視点は常に持つべきではないだろうか？ということ。まあ、相手の視点をイメージするのは決して簡単ではありませんが、「相手に寄り添う」とか「相手の立場に立つ」というのはそういうことなのかなと思っています。

1人称童話シリーズを読みながら、そんなことを感じました。

第4回 コメディ・クラウン・サーカス

平成31年1月3日(木)に、弊社の地域貢献活動として『第4回コメディ・クラウン・サーカスin益田』をグラントワ小ホールにて開催し、約600名の方がご参加くださいました。前回同様、開場時間より前に沢山の方が並んで下さり、弊社スタッフも始まる前からドキドキワクワクで、一緒に楽しむことが出来ました。小さいお子さんから、ご年配の方まで幅広い層の方が来て下さり、本当に嬉しく思います。今回も無事開催する事ができ、感謝しております！ありがとうございました！！



セミナー紹介

平成31年1月21日(月)に、益田商工会議所青年部様にて、「決算分析と未来会計」というテーマで、2時間ほどセミナーの講師をつとめました。



本の紹介

『声の出ないぼくとマリさんの一週間』

松本 聡美・作 渡邊 智子・絵



ある日、親友から「いやなんだよ、おまえのこと」と言われ、声が出せなくなり学校に行けなくなった小学5年生の真一が、母親の仕事の都合で、母親の幼馴染のマリに預けられて過ごした1週間のお話です。真一が、マリを喜ばせようとする姿、周りから、どんな風に思われても強く生きてゆくマリの姿、2人の心理描写が

丁寧に書かれています。この作品は、小学生新聞の毎日の連載が書籍化されたもので、一見、子供向けに感じますが、大人が忘れかけていた子どもの頃の真っすぐな気持ちを思い出させてくれて、読み終わるとホロッとくる作品です。

2時間位で読み終わるので、映画を観る感覚で、読んで頂けたらと思います。



岡崎 幸

「価値が大きく変わる時代の確かな投資先とは」

AI (=人工知能)の叡智が人間の叡智を越えていく転換点、そしてそれによってもたらされる変化のことを、「シンギュラリティ」と呼ぶそうです。ソフトバンク創業者の孫正義氏は、「この転換点は、人類史上最大の革命になる」とまでおっしゃっています。

そして、その「シンギュラリティ」に到達するのは2024年や2030年と予想され、もしかすると数年早まったり遅くなったりするかもしれませんが、いずれにしてもAIの進化は、遠くない未来に確実にやってきて、一度抜かれたら二度と追い越せないくらいに一気にその差 (=AIと人間の叡智の差)は開いていくのだとか。確かに、過去10年の間でスマホが普及し、社会の状況が大きく変わったのと同じように、これから10年先には、いまは想像できない未来が待っているのでしょうか。

そうなれば、あらゆる仕事が再定義され、現在のビジネスモデルは急速に陳腐化する可能性があります。これまでの専門的知識や技術の価値、さらにはお金の価値自体も、大きく変わっていくはずですよ。

そんな中で、価値が変動しない資産があるとすれば、それは「人財」ではないでしょうか。その人が持っている独自のノウハウ、発想力、思考力、経験値、コミュニケーション力、接客力、柔軟性などは、AIに代替されにくいからです。(とはいえ、単純作業を機械のようにこなすだけの人は、真っ先にAIに置き換わるのでしょうか)

したがって、価値が大きく変わる激動の時代こそ、会社として人材育成に時間とお金を投資することが、自社の価値を高めていく上で正しい戦略ではないか・・・そのように考えています。

「経営は、ジグソーパズルに似ている!？」



私は一時期(といっても小学生時代)、ジグソーパズルにはまったことがあるのですが、最近、改めて、会社経営とはジグソーパズルのようなものだな～と感じています。

この場合、1つ1つのピースが社内のメンバーです。ピースには凹凸があり、出っ張ったところはその人の長所、凹んだところは短所を意味します。そして、あるピースの凸と、別のピースの凹とが然るべきポイントでカチッとハマり、パズルの絵ができていくかのごとく、ある社員の長所が別の社員の短所を補うことで、会社としての絵 (=ビジョン) が完成していくといったイメージです。

ここで大事なことは、1つとして凹凸のないピースはないということ。もちろん、経営者や幹部にも凹はあります。(私なんて、凹だらけです 汗)

つまり、メンバー全員、何かしら他のメンバーに補ってもらいながらビジョンという絵を完成させようとするのが、会社経営だと思うのです。

また、その時、ある人の凸を生かせるようにピースの位置を考えるのは、経営者やリーダーの役割だと言えます。

どの人にも必ず長所はありますので、本人も気付いていないかもしれない長所を見つけ出し、然るべきポイント (=その人が輝ける場所・役割) へと導いてあげることができれば、その組織 (=ジグソーパズル) は、ビジョンの実現 (=絵の完成) へと大きく近づくことでしょう。

ジグソーパズルがそうであるように、まずは1人1人の長所・短所、価値観、個性等 (=1つ1つのピースの絵) をよく観察することがスタートなのだと思います。

「原因」と「結果」の間に存在する、「縁の力」



先日、東洋思想家である境野勝悟先生から、「縁の力」について教えていただきました。西洋的な発想では、すべて「原因」と「結果」で物事を捉え、良い結果には良い原因があり、悪い結果には悪い原因があると考えます。したがって、悪い結果に対しては、その原因を追及し、徹底してチェックやダメ出しをしようとする・・・これは結構、やってしまいがちですね。

まあ、そのやり方が100%間違っている訳ではありませんが、ただ日本では、上記のような西洋的な発想とは異なり、「原因」と「結果」の間に、「縁」の存在を認め、「縁の力」を大事にしてきたのだとか。ですので、すべてに見えない力が働いており、良い縁がつけば良い結果が出るし、悪い縁がつけば悪い結果が出るというのが日本的な考え方になります。（ちなみに、縁が引き起こすからこそ、昔から、「縁起がよい」とか「縁起が悪い」と言うのだそうです）

では、縁を良くするためにどうすればよいか？それは、「感謝をすること」だと、境野先生はおっしゃっています。感謝をしながら、明るく、楽しくやっていたら、良い縁がついて、自ずと「結果」が出る。これこそが、西洋的な発想には無い、日本人が大切にしてきた発想なのです。

これを会社に置き換えると、「目の前のお客様とのお縁に感謝し、大事に育めば、儲け（＝結果）は後からついて来る」ということでしょうか。私の場合、職業柄、「利益は狙って出しに行く」とか「目標を立て、計画を作り、チェックする」という西洋的な発想をベースとした話をセミナー等で行いますので、少し考えさせられました（汗）。

ただそうはいっても、会社経営をしていく上では、やはり、売上目標や利益目標も不可欠だとは思いますが。結局のところ、どちらかの発想が100%正解ということではなく、西洋的な発想と東洋的な（日本的）発想とを融合（統合）させていくことが重要なのでしょうか。

何かのご参考までに。

前回(冬号)の「かけはし」の記事の中に、漢字の誤表記がございました。
誤「隠岐の伊良部島」→正「沖永良部島」。
大変失礼しました。また、ご指摘下さった読者様、ありがとうございます。

かけはし編集担当より

<安野からのおすすめコーナー>

*このコーナーでは、私が独断と偏見により選んだ、おすすめの本や映画等を紹介いたします。何かのご参考にしていただくと幸いです！

📖 小説 「勇者たちへの伝言 いつの日か来た道」 (増山実 著) 📖

ベテラン放送作家の工藤正秋は、阪急神戸線の車内アナウンスに耳を奪われます。「次は...いつの日か来た道」。謎めいた言葉に導かれるように、彼は反射的に電車を降ります。小学生の頃、今は亡き父とともに西宮球場で初めてプロ野球観戦した日を思い出しつつ、街を歩く正秋。いつしか彼の意識は、「いつの日か来た」過去へと飛んだ。思いもよらぬ展開で、壮大な物語の中に一気に引き込まれます。それぞれの運命と戦う勇者たちへのメッセージとも言えるでしょう。人生の勝ち負けとは何か？本当の勇気とは何か？について考えさせられる、感動の長編小説です。

🎬 映画 「大脱走」 (監督 ジョン・スタージェス、1963年公開) 🎬

第二次大戦下、脱走不可能といわれていたドイツのスタラグ・ルフト北捕虜収容所から、連合軍将兵250人が集団脱走を計画、実行しました。この信じられないような史実を巨匠ジョン・スタージェスが映画化。収容所の中で3本のトンネルを掘りながら、脱走後の身分証明書、衣類等を調達する捕虜たちの姿や、脱走後、ドイツから出国するまでにどんな手段を用いたかによって運命が分かれる点等も見所です。また、誰もが耳にしたことのある『大脱走のマーチ』の音楽がさらに作品を盛り上げてくれます。それにしても、ステイブ・マックイーン演じるヒルツのバイク疾走シーンはカッコいい(笑)。